

IR説明資料



福岡

北九州



福岡北九州高速道路公社

平成30年11月

目次

第1部 概要・取り組み

1. 概要	
福岡北九州高速道路公社とは	4
福岡・北九州高速道路ネットワーク	5
有料道路の事業主体と種類	6
基本理念・経営理念	7
主な業務	8
供用延長・通行台数・料金収入の推移(全体)	9
高架下駐車場	10
設立団体及び国との関係	11
一般的な事業の進め方	12
整備計画及び料金認可	13
高速道路建設事業費の推移	14
道路公社の解散	15
2. 公社の取り組み	
ネットワーク機能の強化	16
構造物の維持管理の取り組み	17

第2部 財務状況・資金調達

1. 財務状況	
会計処理の特徴	20
償還準備金積立方式のしくみ	21
平成29年度損益計算書の概要	22
収支状況(平成29年度決算:損益計算書[道路部門])	23
平成29年度貸借対照表の概要	24
財務状況(平成29年度決算:貸借対照表)	25
償還準備金繰入の推移	26
償還率の推移(平成24~29年度)	27

2. 資金調達	
資金調達の概要	28
平成30年度の債券発行額	29
3. 福岡北九州高速道路債券	
金融商品取引法上の取扱い	30
BISリスクウエイト	30
債務保証	31
債務保証を行う場合のケーススタディ	32

<参考資料>

通行台数・料金収入の推移	34
収支状況の推移(平成24~29年度)	36
キャッシュ・フロー計算書	37
償還計画図	38
平成30年度収入支出予算	39
債務残高の推移	40
出資金	41
路線図	42

第1部 概要・取り組み



1. 概要 福岡北九州高速道路公社とは

- 地方道路公社法に基づき福岡県、福岡市、北九州市により設立された特別法人(昭和46年11月1日設立)
- 福岡・北九州高速道路は、福岡都市圏及び北九州都市圏の交通体系の根幹となるネットワークを形成する指定都市高速道路

福岡・北九州高速道路ネットワーク



九州の有料道路の総延長
1,239.9km

都市高速総延長 **106.3km**
の占める割合は、**約8.6%**

九州の有料道路の利用台数
約117万台/日

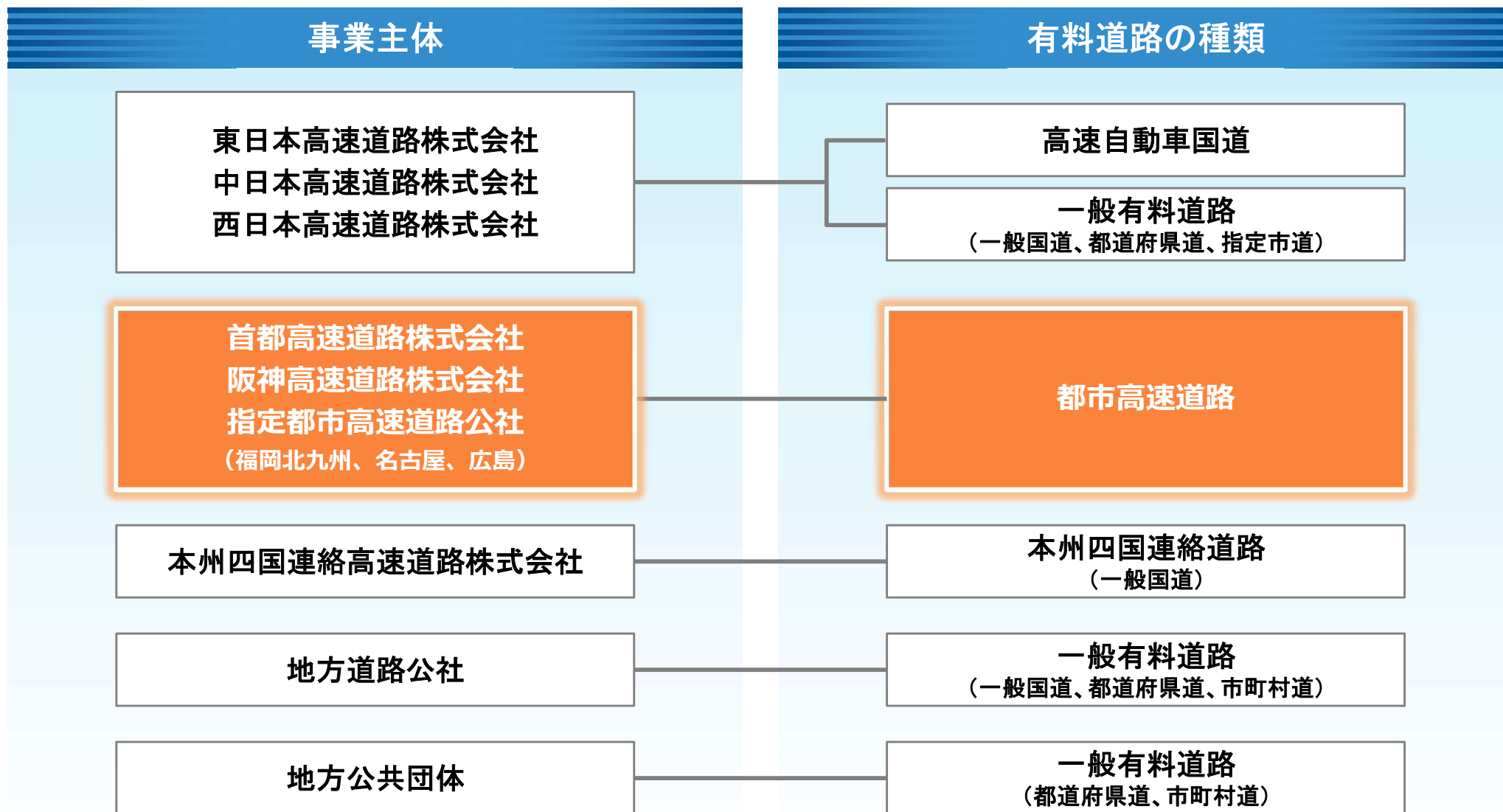
都市高速の利用台数
約28万台/日

九州の有料道路利用台数の
約24%が
福岡北九州高速の利用者

注) 九州の有料道路とは、NEXCO管理道路と、公社管理道路を指します。

平成30年3月末現在

有料道路の事業主体と種類



基本理念・経営理念

基本理念

- 福岡・北九州両都市圏における安全・円滑な都市高速道路ネットワークを運営することにより、都市圏内外の人と物の交流を促進し、経済の発展、環境の改善及び生活の向上に貢献します

経営理念

- **お客様第一**
お客様に満足いただける、安全・安心・円滑な質の高い都市高速道路サービスを提供します
- **社会的責任**
高い倫理観を持ち、都市高速道路の専門家集団としての総合力を発揮して、お客様や地域の皆様に信頼される組織を目指します
- **安定した経営**
健全かつ効率的な経営により、将来にわたり良好な都市高速道路サービスを提供します

主な業務

- 1 指定都市高速道路の新設、改築、維持管理
- 2 高速道路と密接な関連のある道路の建設、管理
- 3 高架下施設の管理

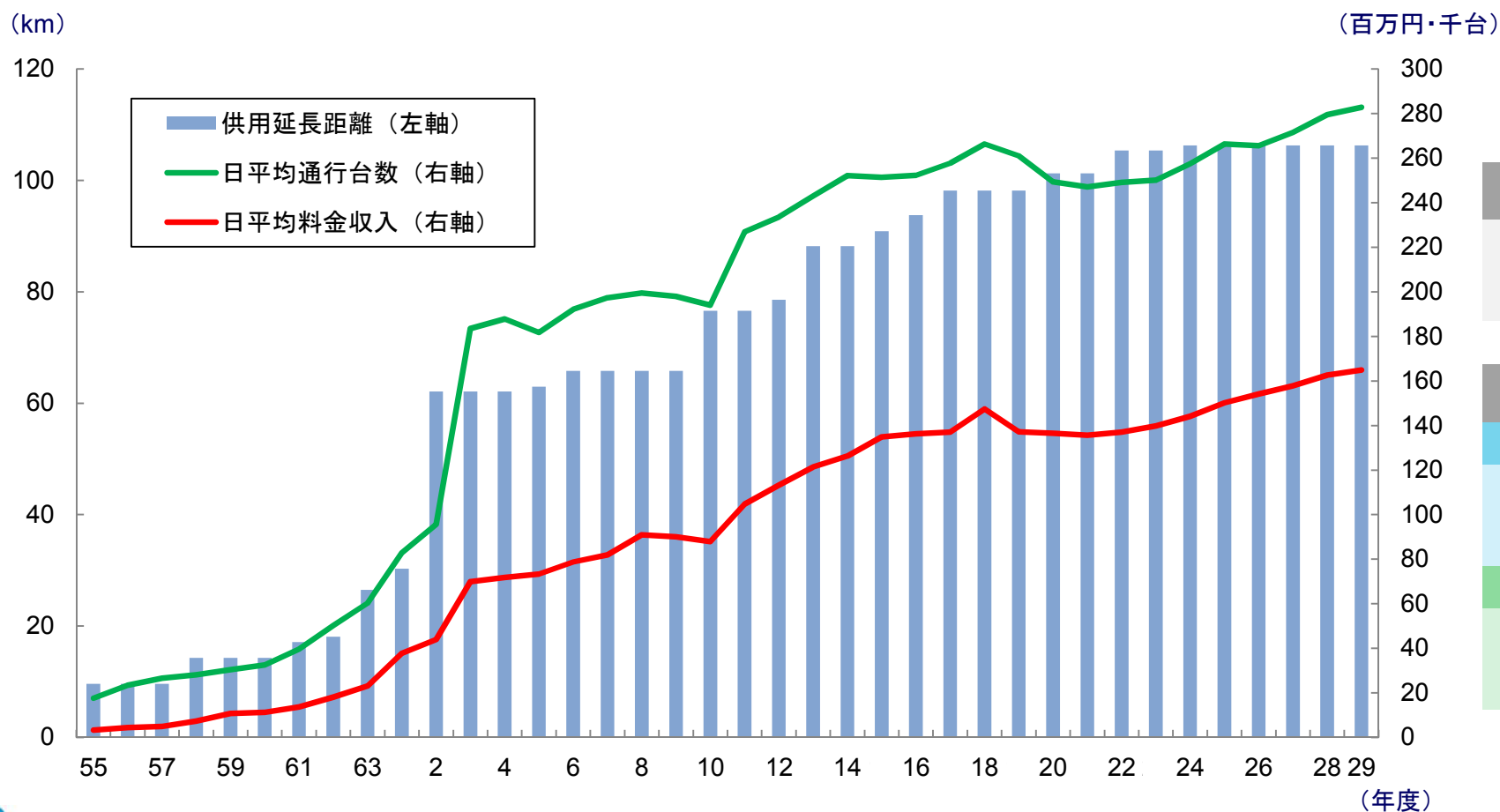
供用延長・通行台数・料金収入の推移(全体)

平成29年度

■ 平均通行台数: **28.3万台/日**

■ 平均料金収入: **1.6億円/日**

■ 料金収入: **602億円/年**



供用延長距離
平成30年3月末日現在
106.3km

料金	
福岡高速	
普通車	620円
大型車	1,230円
北九州高速	
普通車	510円
大型車	1,030円

高架下駐車場

- 福岡高速道路及び北九州高速道路の高架下の有効利用、ならびに沿線住民へのサービスの一環として、駐車場の運営管理を行っています。

【貸付形態】月極・時間貸(コインパーキング)

区分	施設数	契約台数	年間収入(億円)
福岡 駐車場	35ヶ所	約 1,300台	1.2
北九州 駐車場	45ヶ所	約 1,000台	1.0
計	80ヶ所	約 2,300台	2.2

※ 箇所数及び契約台数は平成30年11月1日現在
※ 年間収入は平成29年度実績
※ 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります

月極駐車場



時間貸駐車場



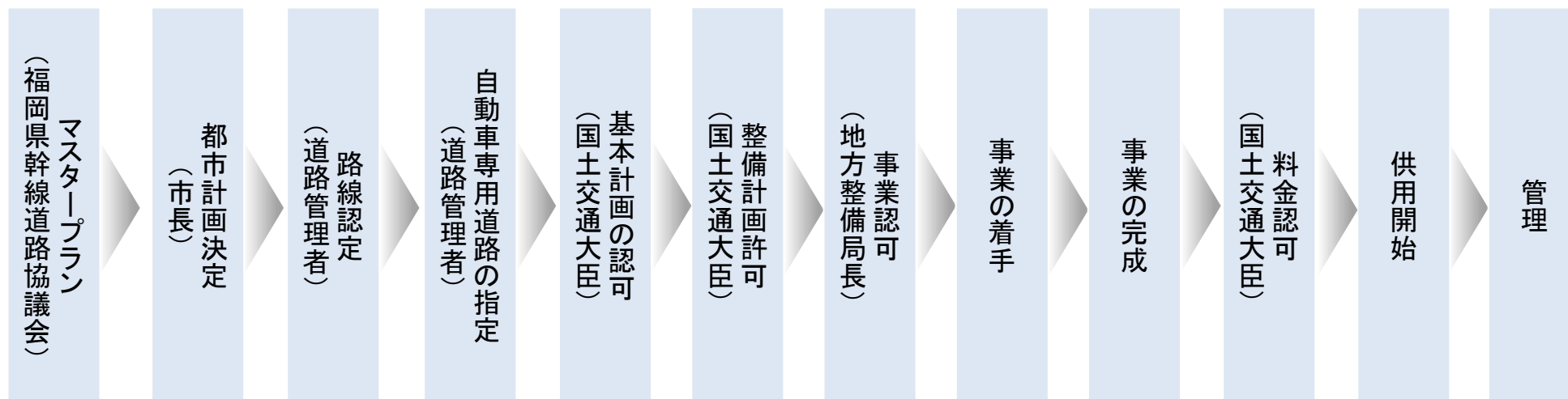
設立団体及び国との関係

地方道路公社法に基づく主な認可、承認	認可者・任命者等
定款及び業務方法書の認可(第5条、第9条、第22条)	国土交通大臣
役員任命(第13条)	福岡県知事・福岡市長・北九州市長
予算、事業計画及び資金計画(第24条)	福岡県知事・福岡市長・北九州市長
財務諸表の提出(第26条)	福岡県知事・福岡市長・北九州市長
給与、退職手当の支給基準の承認(第32条)	福岡県知事・福岡市長・北九州市長
報告及び検査(第38条)	国土交通大臣又は福岡県知事・福岡市長・北九州市長
監督命令(第39条)	国土交通大臣又は福岡県知事・福岡市長・北九州市長

道路整備特別措置法に基づく許可、認可	許可者・認可者
整備計画に関する許可(第12条 第1項)	国土交通大臣
料金及び料金徴収期間の認可(第13条 第1項)	国土交通大臣

地方道路公社法の定めにより、運営上重要な事項については、
福岡県・福岡市・北九州市及び国の承認等並びに財政的支援を受け事業を遂行

一般的な事業の進め方



整備計画及び料金認可

福岡高速道路

- 整備計画
 - 総事業費8,823億円、全長59.3km。
 - 都心と市街地周辺との連結により、都市内の交通混雑の緩和と、都心との連絡強化を図ることを基本方針としています。

■ 料金認可

料金	普通車620円・大型車1,230円
認可年月日	2014年(平成26年) 3月 5日
換算起算日	1998年(平成10年) 9月13日
償還終了日	2045年(平成57年) 8月20日 (2018年から約27年後)
償還期間	換算起算日から 47年

※ 1980年10月(最初の供用日)から64年10ヶ月

注)「換算起算日」とは、これまでの開通区間の事業費を勘案したネットワーク全体の平均的な開通日のことです

北九州高速道路

- 整備計画
 - 総事業費3,600億円、全長49.5km。
 - 平成20年度に事業完了。
 - 都心と市街地周辺との連結、市内の各拠点間の連絡強化、そして、都市内の交通混雑の緩和を図ることを基本方針としています。

■ 料金認可

料金	普通車510円・大型車1,030円
認可年月日	2014年(平成26年) 3月5日
換算起算日	1993年(平成5年) 7月14日
償還終了日	2043年(平成55年) 7月12日 (2018年から約25年後)
償還期間	換算起算日から 50年

※ 1980年10月(最初の供用日)から62年8ヶ月

高速道路建設事業費の推移

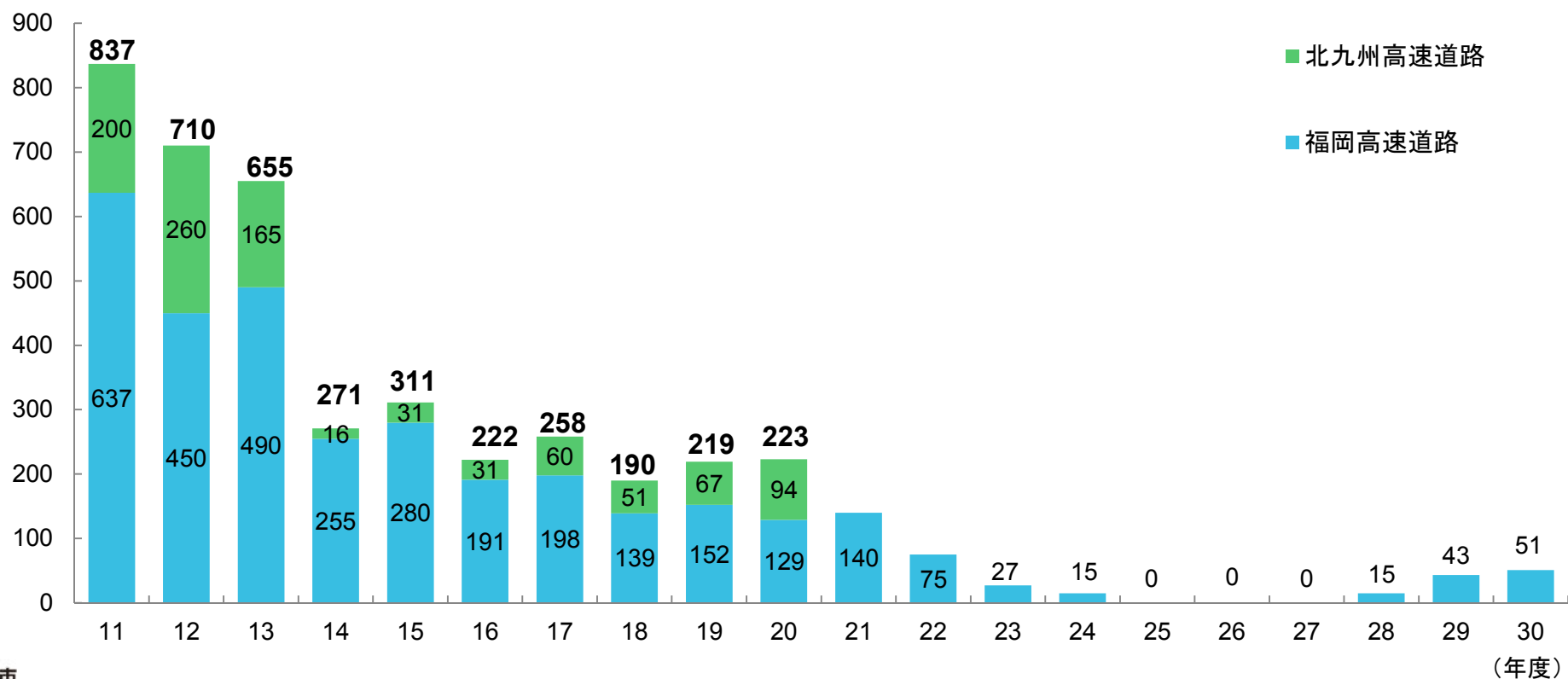
福岡高速道路

平成24年度に建設事業が一旦終了しましたが、平成28年度から建設事業を再開(6号線の建設を開始)しています。

北九州高速道路

平成20年度に建設事業は終了しました。

(億円/年)



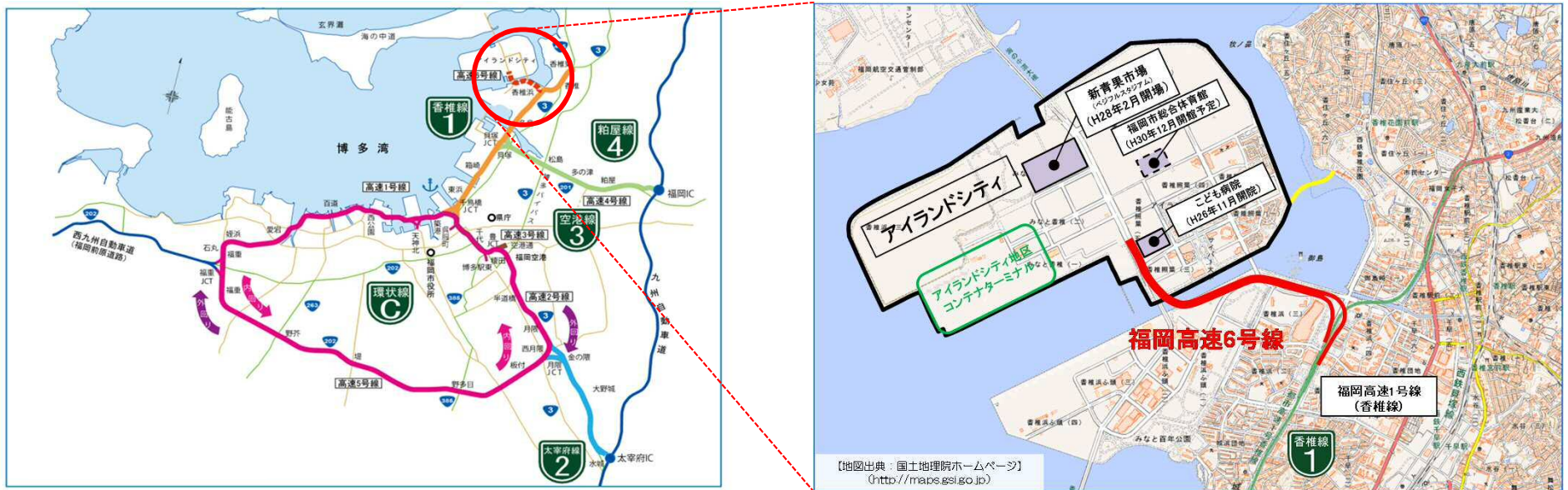
道路公社の解散

解散	
根拠法	地方道路公社法(第34条)
解散	業務の完了により解散 ※ 借入金残高がある場合は、債権者の同意が必要
解散の手続き	国土交通大臣の認可・設立団体の同意・議会の議決

2. 公社の取り組み ネットワーク機能の強化

福岡高速6号線(都市計画道路アイランドシティ線)

- 福岡高速6号線(都市計画道路アイランドシティ線)は、福岡高速1号線とアイランドシティ地区を結ぶ自動車専用道路です。
- 平成28年度から事業に着手し、整備を進めております。
- 増加する福岡市東部地域への交通需要への対応が可能になります。
- 福岡高速道路を介してアイランドシティ地区が九州自動車道などと直結されることで、広域的な交通ネットワークが形成されます。



延長	2.5km	事業費	176億円 ※ 人件費等を含む
車線数	4車線	完成予定	平成32年度

構造物の維持管理の取り組み

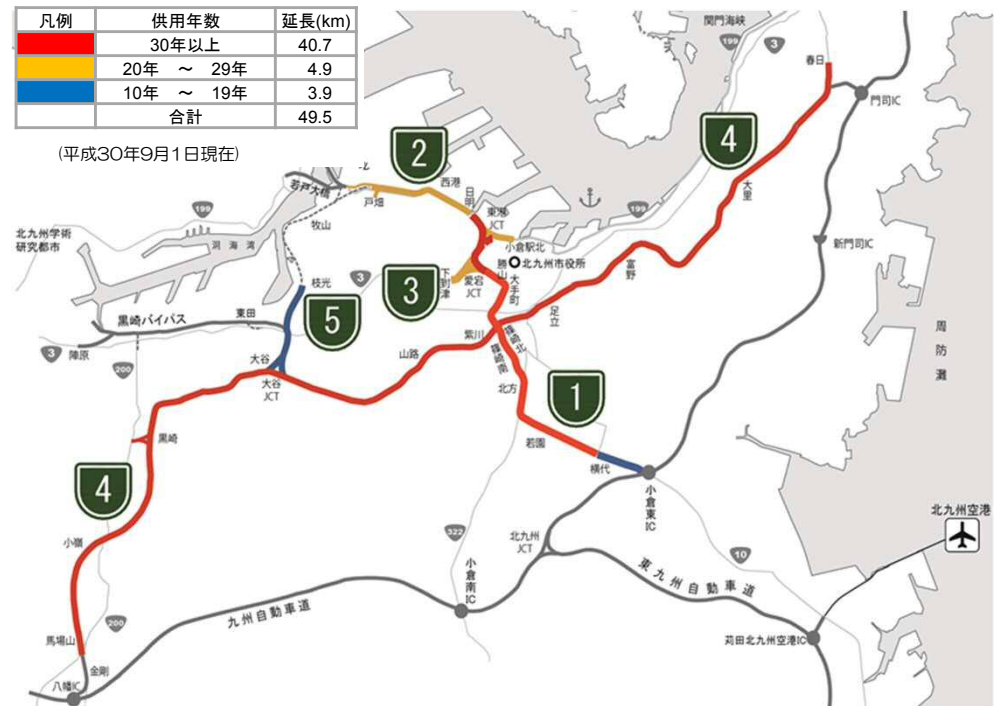
福岡高速道路

- 福岡高速では、料金認可（H24.7.10）により、老朽化・予防保全対策として約630億円の追加投資が決定しており、H43年までの20年間でコンクリート部の剥落対策や床版の補強、鋼部材の塗装補修などを進めています。



北九州高速道路

- 北九州高速では、H15～H20年度に4号線の橋梁、トンネル、付属物等の長寿命化を目的として大規模補修事業（約245億円）を実施しました。その他の路線についても舗装補修（橋面防水工含む）や、しゃ音壁の補修などを進めています。



構造物の維持管理の取り組み(平成29年度の実施状況)

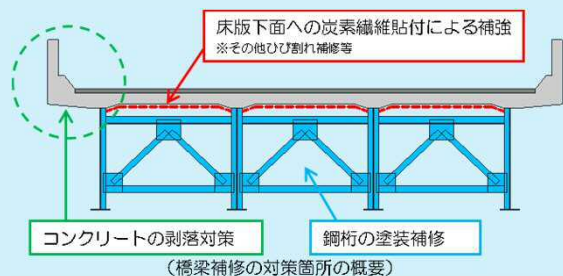
福岡高速道路

- 平成24年度より香椎線(香椎～千鳥橋JCT)を中心に老朽化・予防保全対策を進めています。

当該エリアの特徴

- 香椎～千鳥橋JCTは、供用から30年を超える古い橋梁であり今後、高齢化が進みます。
- 博多湾沿いに位置することから塩の影響を受ける恐れがあります。

- 老朽化・予防保全工事における具体策の事例



床版(補修・補強前)



床版(補修・補強後)



下部工(補修前)



下部工(補修後)

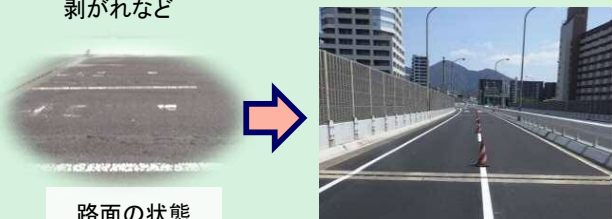
- 北九州高速1号線(大手町～勝山区間)で舗装改良工事、1号線(北方～篠崎南区間)と3号線(東港JCT～愛宕JCT区間)でしゃ音壁補修工事、1号線(横代～若園区間)で防護柵補修工事を行っています。

北九州高速道路

・北九州高速1号線:大手町～勝山区間

[工種] 舗装改良工事

[損傷の特徴]
舗装のひび割れや、部分的な舗装の剥がれなど



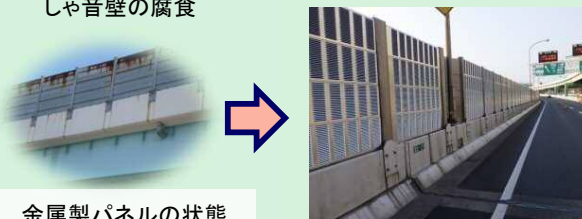
路面の状態

【舗装完了】

・北九州高速1号線:北方～篠崎南区間
・北九州高速3号線:東港JCT～愛宕JCT区間

[工種] しゃ音壁補修工事

[損傷の特徴]
しゃ音壁の腐食



金属製パネルの状態

【補修完了】

・北九州高速1号線:横代～若園区間

[工種] 防護柵補修工事

[損傷の特徴]
ガードレール支柱の腐食



支柱基部の状態

【補修完了】

第2部 財務状況・資金調達



1. 財務状況 会計処理の特徴

- 公社では、財政状態や経営成績を明らかにするため、企業会計原則に準じた会計処理を行っています。
＜根拠法令等＞地方道路公社法、同法施行規則、福岡北九州高速道路公社会計規程、同規程実施細則

有料道路制度の会計の特徴は

- 有料道路事業制度は、借入金により道路を建設し、お客様からの料金収入により定められた期間内に償還し、償還完了後は無料開放する制度です。
- 毎年度の『収支差』（収入と費用の差）は全て投下資金（借入金）の償還に充当します。

借入金の償還状況を適切に把握するために

- 福岡北九州高速道路公社は、利益を配当する義務がなく、法人税法上の公共法人であるため、法人税を課せられたりすることがなく、収支差の全てを償還に充当します。
- 有料道路事業制度は、無料開放を実現するとの観点から、借入金の償還状況を会計処理において適切に把握するため、新たな設備投資資金を積み立てるという企業会計上一般に採用されている減価償却費を計上する方式は採用していません。

償還準備金積立方式を採用

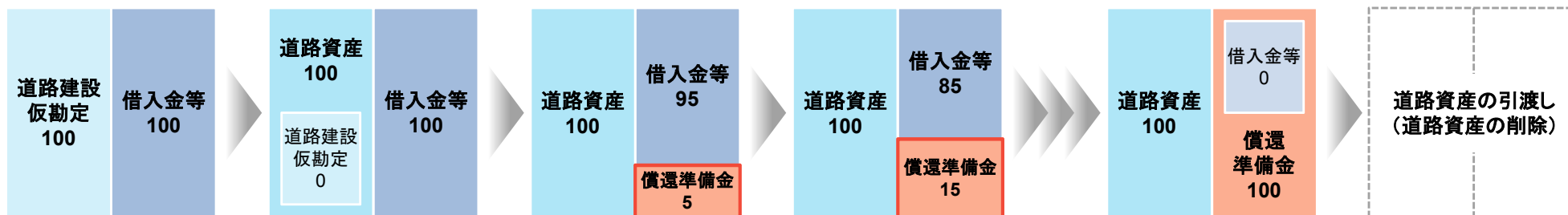
- 借入金の償還に充てられる各年度の『収支差』を『償還準備金繰入』として費用計上し、その累計額を『償還準備金』として負債に計上する方式を採用しています。
- 道路の資産を形成するのに要した費用を積み上げた『道路資産』と借入金の返済に充てる『償還準備金』を対比することにより、償還状況が明確に把握できます。

償還準備金積立方式のしくみ

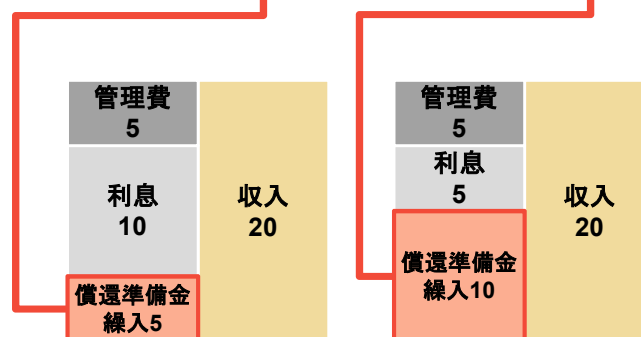
公社の貸借対照表と損益計算書にみる償還準備金積立方式のしくみ



■ 貸借対照表



■ 損益計算書



平成29年度損益計算書の概要

- **償還準備金繰入** = 道路事業の収支差益 (= **道路の当期利益**)
- **当期利益金** = 駐車場事業の収支差益 (= **駐車場の当期利益**)

(単位:億円)

費用の部					収益の部				
科目	金額			増減率	科目	金額			増減率
	平成29年度	平成28年度	差額			平成29年度	平成28年度	差額	
事業資産管理費	142	139	3	1.8%	業務収入	608	599	8	1.4%
道路管理費	141	138	2	1.7%	道路料金収入	602	594	8	1.4%
駐車場管理費	1	1	0	21.8%	(福岡高速)	424	418	6	1.5%
一般管理費	12	11	1	8.4%	(北九州高速)	177	175	2	1.2%
業務外費用	58	67	△9	△13.8%	ETCマイレージ還元負担金収入	2	2	0	0.9%
損失補てん引当金繰入	28	27	0	1.4%	(福岡高速)	2	2	0	1.1%
小計	240	245	△5	△2.2%	(北九州高速)	0	0	0	△0.1%
償還準備金繰入	368	354	14	4.0%	駐車場収入	2	2	0	△0.1%
(福岡高速)	272	262	10	3.7%	業務雑収入	2	1	0	8.0%
(北九州高速)	97	92	4	4.6%	業務外収入等	0	0	0	11.6%
当期利益金	0	1	0	△52.2%					
合計	608	600	8	1.4%	合計	608	600	8	1.4%

注1) 上記収益及び費用は受託業務、負担金事業を除いています

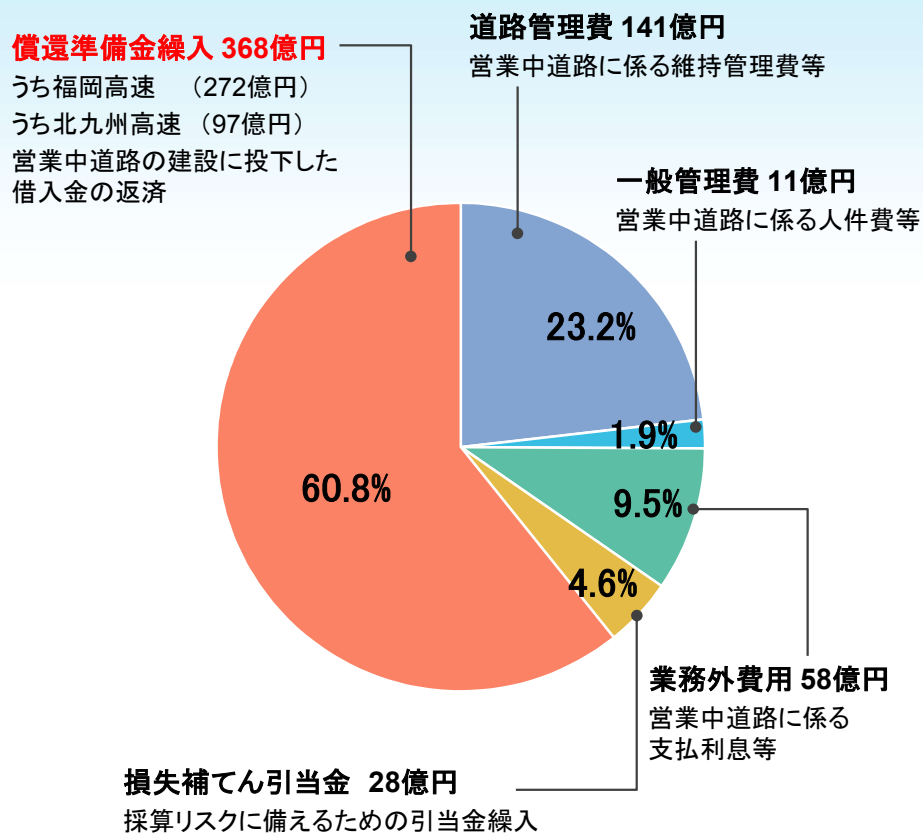
注2) 千万単位で四捨五入しているため、5千万円未満は表記上0となっております

注3) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります

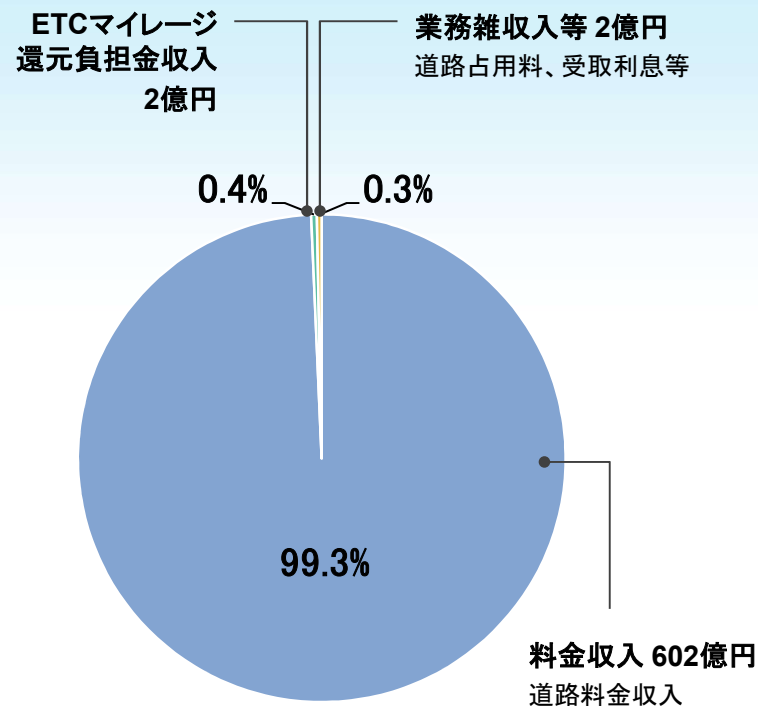
収支状況(平成29年度決算:損益計算書〔道路部門〕)

- 平成29年度は、**収支差益(償還準備金繰入)**が約**368億円**
- 収支差益は、全額、道路建設に投下した借入金の返済に充当

費用内訳 606億円



収益内訳 606億円



注1) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります
注2) 割合は百万円単位で計算しています

平成29年度貸借対照表の概要

(単位:億円)

資産の部					負債及び資本の部				
科目	金額			増減率	科目	金額			増減率
	平成29年度	平成28年度	差額			平成29年度	平成28年度	差額	
流動資産	75	56	19	33.2%	流動負債	794	739	55	7.4%
現金・預金外	75	56	19	33.2%	1年以内返済予定債券・借入金※	728	688	40	5.8%
固定資産	12,601	12,541	59	0.5%	その他	66	51	15	28.9%
事業資産	12,510	12,491	19	0.1%	固定負債	4,887	5,267	△380	△7.2%
(福岡高速)	8,751	8,734	18	0.2%	道路債券※	3,145	3,283	△138	△4.2%
(北九州高速)	3,758	3,757	1	0.0%	政府借入金※	461	563	△103	△18.2%
道路建設仮勘定	58	15	43	295.3%	その他借入金※	1,209	1,348	△139	△10.3%
有形固定資産等	33	36	△2	△6.8%	退職給与引当金等	3	3	0	△11.8%
					資産見返交付金	69	69	0	0.0%
繰延資産	9	9	0	△2.3%	特別法上の引当金等	4,772	4,376	396	9.1%
債券発行差金外	9	9	0	△2.3%	損失補てん引当金	327	299	28	9.3%
					償還準備金	4,444	4,076	368	9.0%
					(福岡高速)	3,747	3,475	272	7.8%
					(北九州高速)	698	601	97	16.1%
					負債合計	10,452	10,381	71	0.7%
					基本金	2,222	2,215	6	0.3%
					地方公共団体出資金	2,222	2,215	6	0.3%
					剰余金	11	10	0	2.5%
					資本合計	2,232	2,226	7	0.3%
合計	12,684	12,607	78	0.6%	合計	12,684	12,607	78	0.6%

注1) 千万単位で四捨五入しているため、5千万円未満は表記上0となっております

注2) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります

※借入金合計5,543億円(短期借入金は除く)

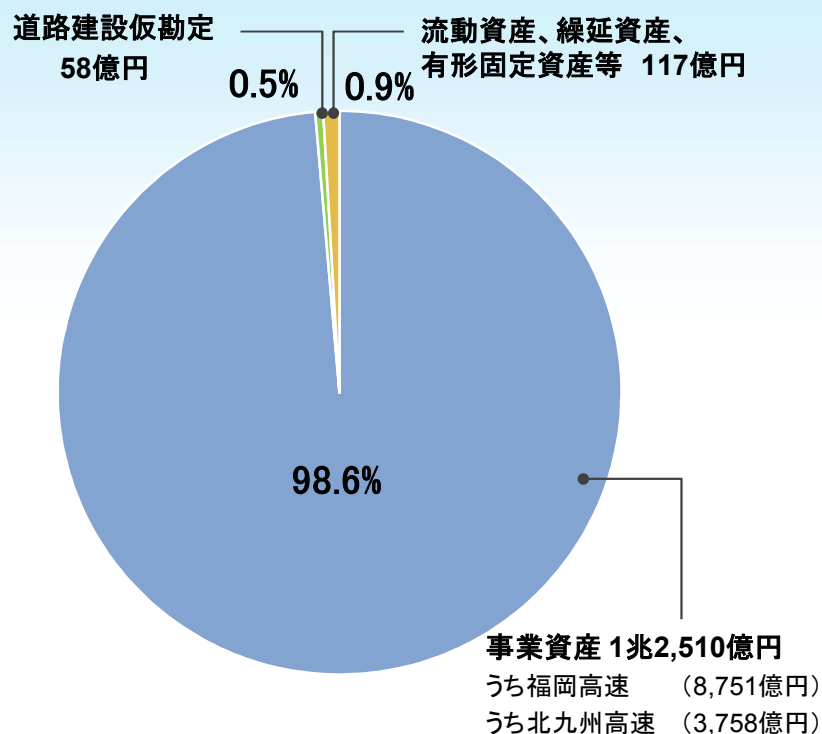
(内訳: 流動負債728億円+固定負債のうち道路債券、政府借入金、その他借入金計4,815億円)

財務状況(平成29年度決算:貸借対照表)

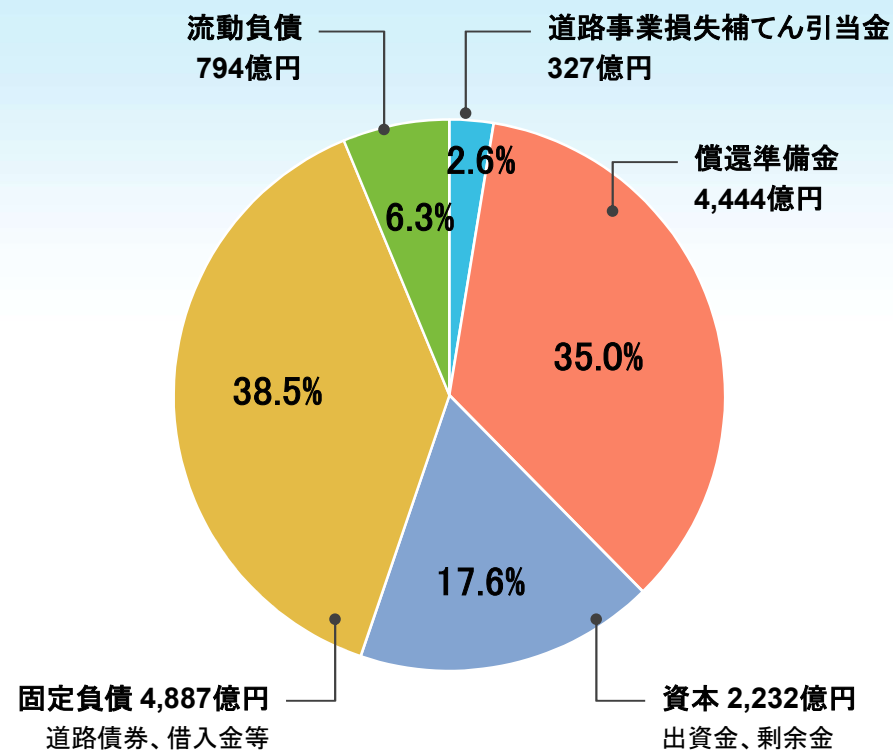
- 資産1兆2,684億円のうち、約99%を道路資産が占める
- 負債・資本のうち43.2%が固定負債(道路債券、長期借入金等)
- 営業中道路の償還に充当した累計額(償還準備金)は、4,444億円

- 道路事業損失補てん引当金(将来の採算リスクに備えるための引当金)は、指定都市高速道路では、唯一当会社のみが積立
毎年度の引当率は料金収入の5%
- 資本のうち基本金(2,222億円)は、全額設立団体の出資金

資産内訳: 1兆2,684億円



負債・資本内訳: 1兆2,684億円



注1) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります
注2) 割合は百万円単位で計算しています

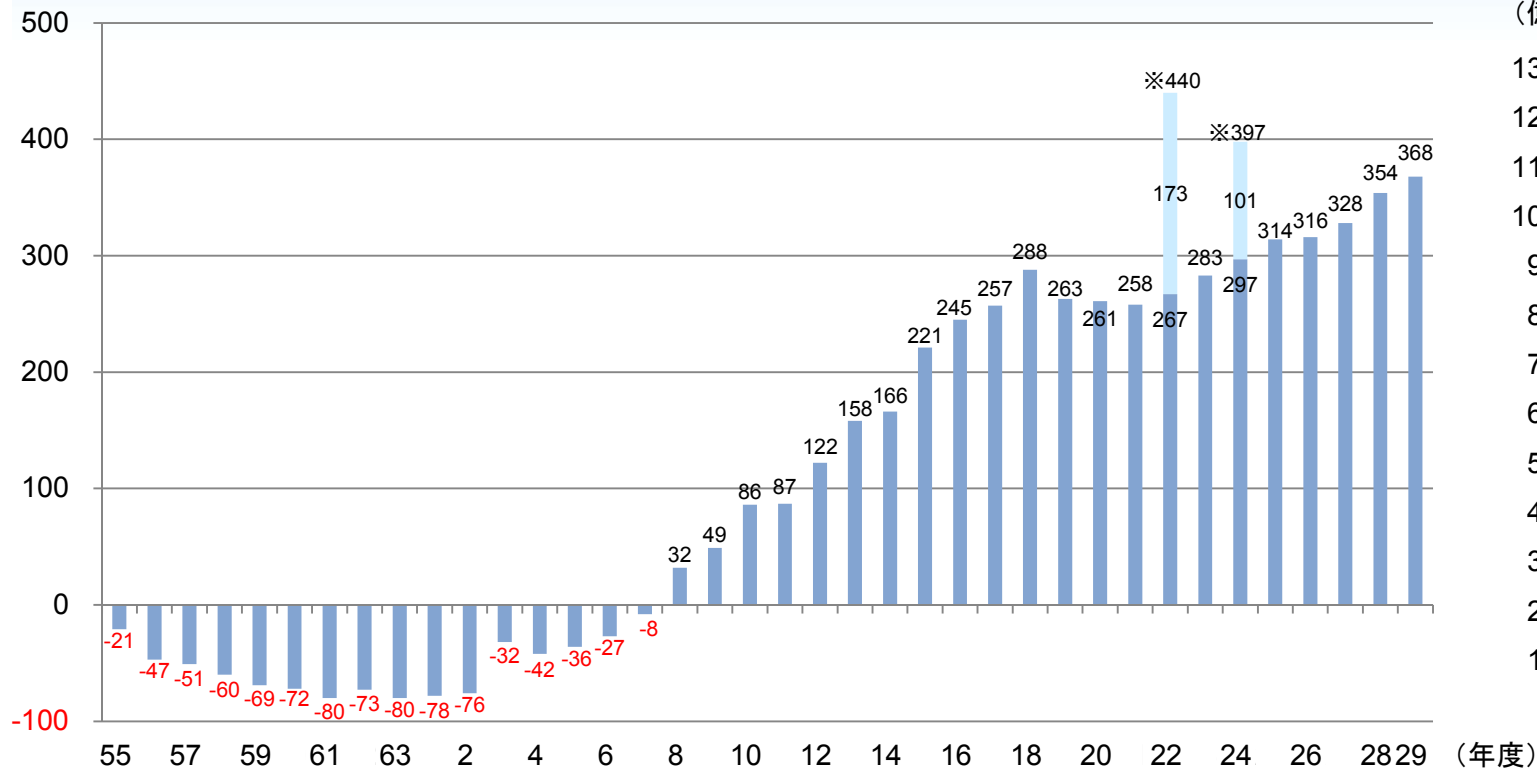
償還準備金繰入の推移

- 償還準備金繰入は堅調に推移
- 繰入の累計である償還準備金は平成29年度末に4,444億円となり、今後も着実に償還準備金積立を行う見通し

償還準備金繰入の推移と償還状況

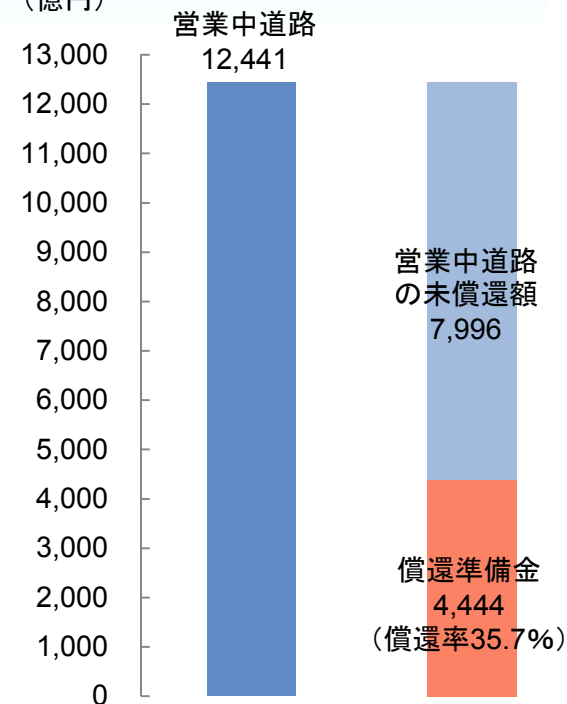
償還準備金繰入の推移(S55~H29年度)

(億円/年)



償還状況(平成29年度末)

(億円)



※ 平成22年度は173億円、平成24年度は101億円の損失補てん引当金取り崩し額を含みます
 注) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります

償還率の推移(平成24～29年度)

- 償還率は堅調に上昇し、**償還は確実に進展**

償還率とは、営業中路線の
資産額に対する償還準備金の割合

償還率

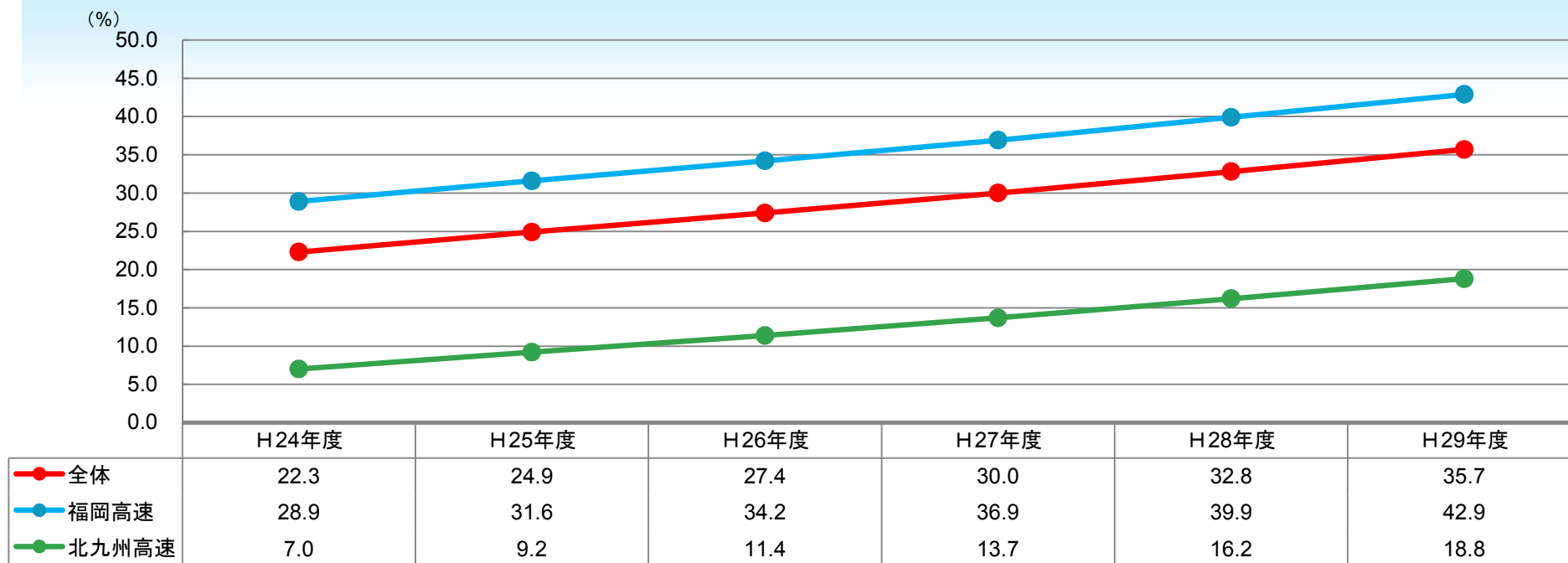
=

償還準備金

営業中の道路資産(△資産見返り交付金)

× 100

償還率の推移(平成24～29年度)

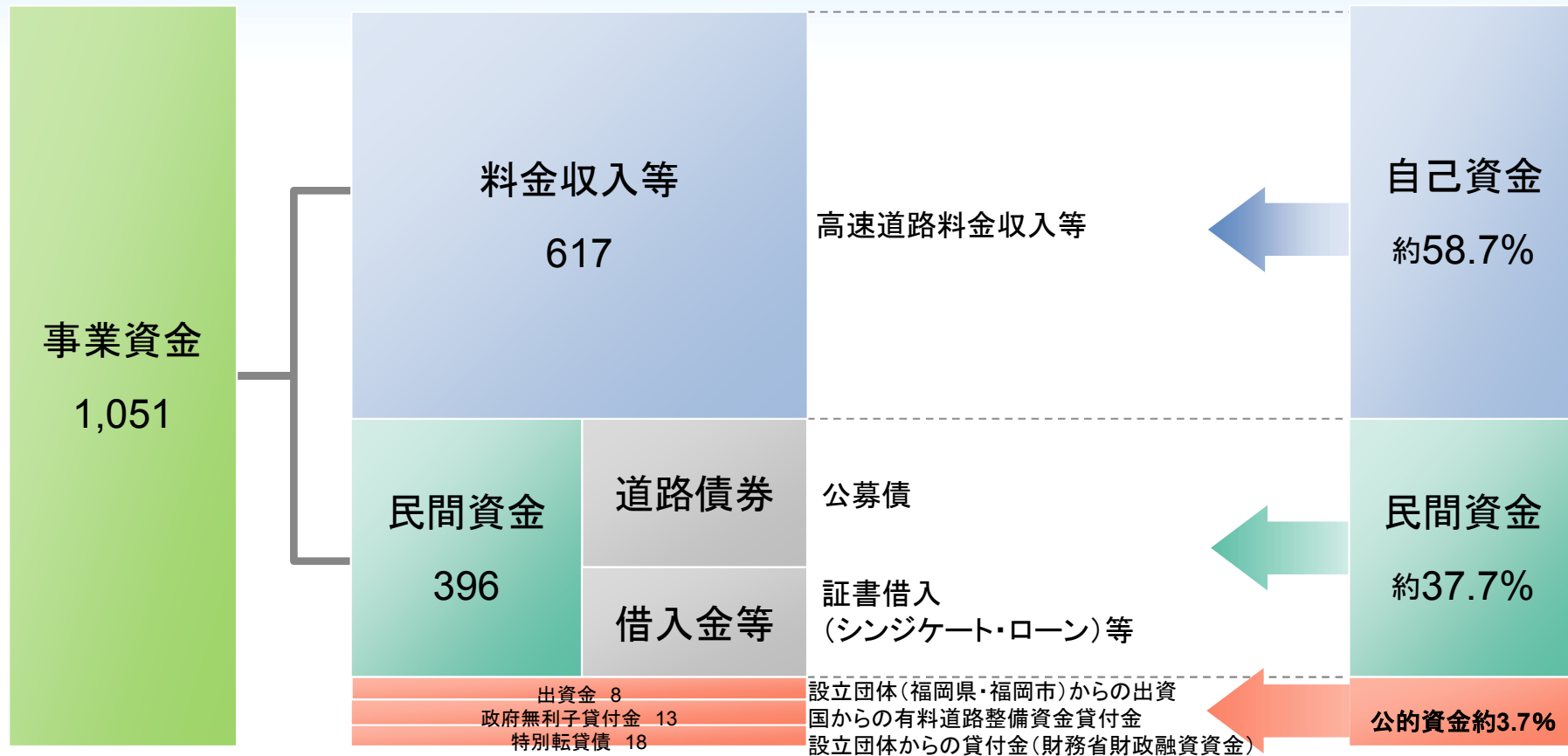


注) 割合は百万円単位で計算しています

2. 資金調達 資金調達の概要

平成30年度の資金構成・予算額

(単位: 億円)



注1) 受託業務収入、負担金事業収入等を除いています
 注2) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります

平成30年度の債券発行額

平成30年度

- 福岡北九州高速道路債券(公募債)
 - 10年債及び超長期債を発行予定 発行額は未定

- 公募債累計発行総額 3,850億円
- 今後も継続的に発行する予定です。

福岡北九州高速道路債券(公募債)発行実績

発行年度	発行月	回数	発行額	年限	スプレッド	発行年度	発行月	回数	発行額	年限	スプレッド
平成16年度	1月	105回	100億円	10年	15.0bp	平成25年度	3月	132回	100億円	10年	8.0bp
平成17年度	2月	107回	250億円	10年	16.0bp		3月	133回	120億円	15年	7.0bp
平成18年度	9月	109回	150億円	10年	39.0bp	平成26年度	3月	135回	70億円	10年	10.0bp
	1月	110回	150億円	10年	28.0bp		3月	136回	70億円	15年	4.0bp
平成19年度	12月	112回	200億円	10年	33.0bp		3月	137回	130億円	20年	4.5bp
	1月	113回	100億円	20年	35.0bp	平成27年度	12月	139回	60億円	10年	18.0bp
平成20年度	9月	115回	100億円	10年	32.0bp		12月	140回	50億円	15年	10.0bp
	1月	116回	100億円	10年	43.0bp		3月	141回	120億円	10年	17.0bp
平成21年度	1月	117回	100億円	20年	43.0bp		3月	142回	50億円	15年	10.0bp
	9月	119回	100億円	10年	15.0bp	3月	143回	100億円	20年	7.0bp	
平成22年度	2月	120回	100億円	10年	14.0bp	平成28年度	9月	144回	75億円	10年	15.0bp
	2月	121回	100億円	20年	16.0bp		12月	145回	85億円	20年	5.5bp
平成23年度	2月	123回	100億円	10年	11.0bp		3月	146回	100億円	10年	16.0bp
	2月	124回	200億円	15年	15.0bp		3月	147回	80億円	15年	12.0bp
平成24年度	2月	126回	100億円	10年	6.0bp	3月	148回	80億円	20年	5.5bp	
	2月	127回	150億円	15年	11.0bp	平成29年度	3月	149回	110億円	10年	17.0bp
平成24年度	3月	129回	100億円	10年	3.0bp		3月	150回	60億円	15年	10.5bp
	3月	130回	100億円	15年	3.0bp		3月	151回	90億円	20年	3.5bp

注) カーブ対比のスプレッドを記載しています

3. 福岡北九州高速道路債券

金融商品取引法上の取扱い

- 証券決済制度改革に伴う法改正で、平成15年1月から地方公社が発行する債券は金融商品取引法上の有価証券に該当します
 - 地方道路公社法第27条の2「道路公社は、債券を発行することができる」
 - 金融商品取引法第2条第3号「特別の法律により法人の発行する債券」

BISリスクウエイト

- 福岡北九州高速道路公社が発行する債券は、現行のBIS規制では、地方公共団体の債務保証がある場合には、当該被保証部分について地方債と同様**リスクウエイトが0%**

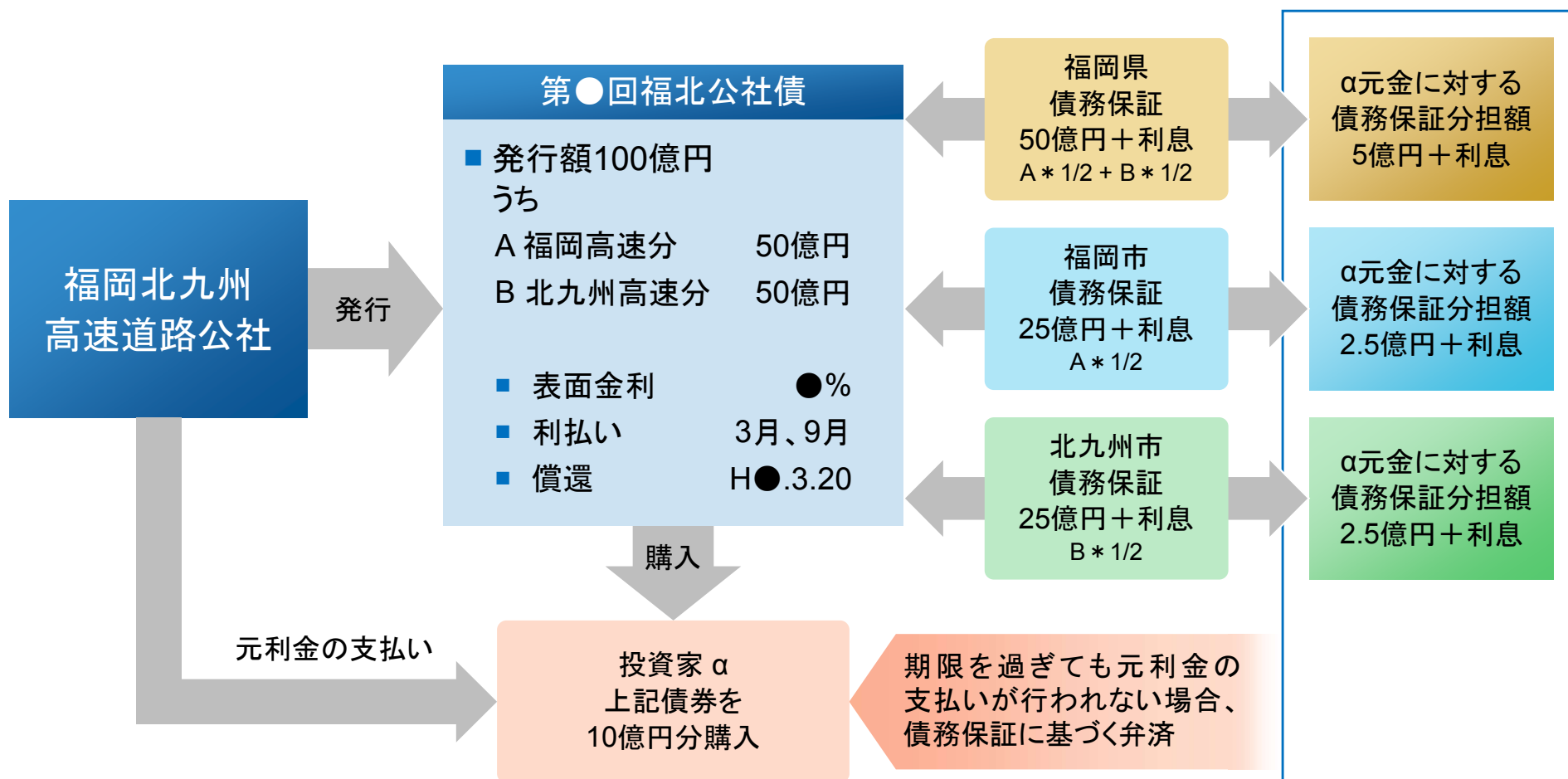
債務保証

- 福岡北九州高速道路債券は、**福岡県・福岡市・北九州市からの債務保証付の債券**
 - 本債券の元金及び利息の支払いは各団体が分担して保証
 - 保証割合
 - 福岡県 (福岡高速に対する発行額＋北九州高速に対する発行額) × 1/2
 - 福岡市 福岡高速に対する発行額 × 1/2
 - 北九州市 北九州高速に対する発行額 × 1/2
- 地方道路公社法第28条
「設立団体は、法人に対する政府の財政援助の制限に関する法律第3条の規定にかかわらず、**道路公社の債務**について**保証契約**をすることができる。」
- 法人に対する政府の財政援助の制限に関する法律第3条
「政府又は地方公共団体は、会社その他の法人の債務については、保証契約をすることができない。ただし、財務大臣(地方公共団体のする保証契約にあつては、総務大臣)の指定する会社その他の法人についてはこの限りではない。」

注) 平成18年度より(株)格付投資情報センター(R&I)に依頼して取得していた発行体格付は、債務保証付債券であることを鑑み、平成24年度から更新依頼を行っておりません

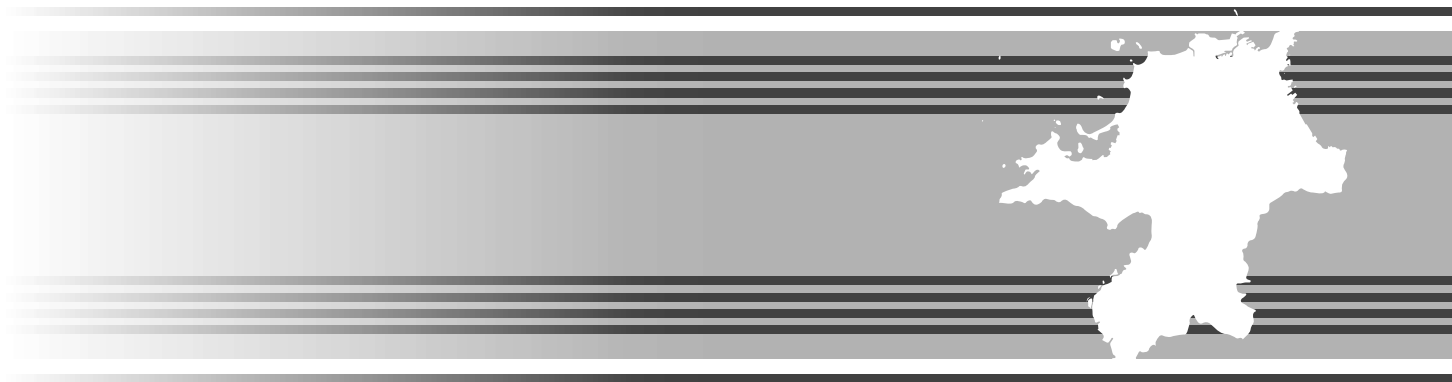
債務保証を行う場合のケーススタディ

- 元利金の支払いが履行遅滞となった場合、発行債券における債務保証の分担額に応じて、債務保証に基づく保証を実施



注) 発行額及び福岡高速・北九州高速の発行割合は、資金需要により変動する場合があります

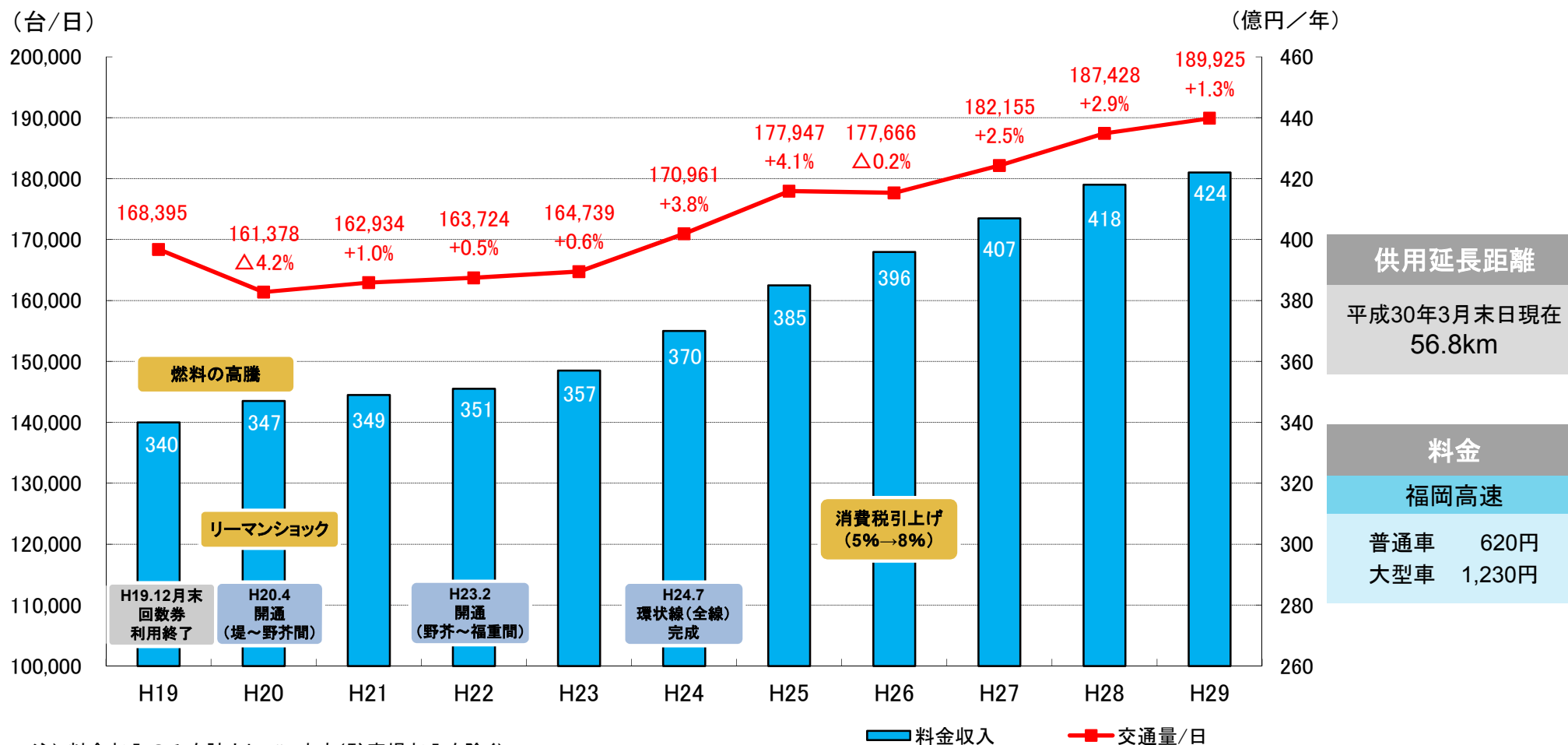
參考資料



通行台数・料金収入の推移（福岡高速道路）

平成29年度

■ 平均通行台数：**19.0万台／日** ■ 平均料金収入：**1.16億円／日** ■ 料金収入：**424億円／年**

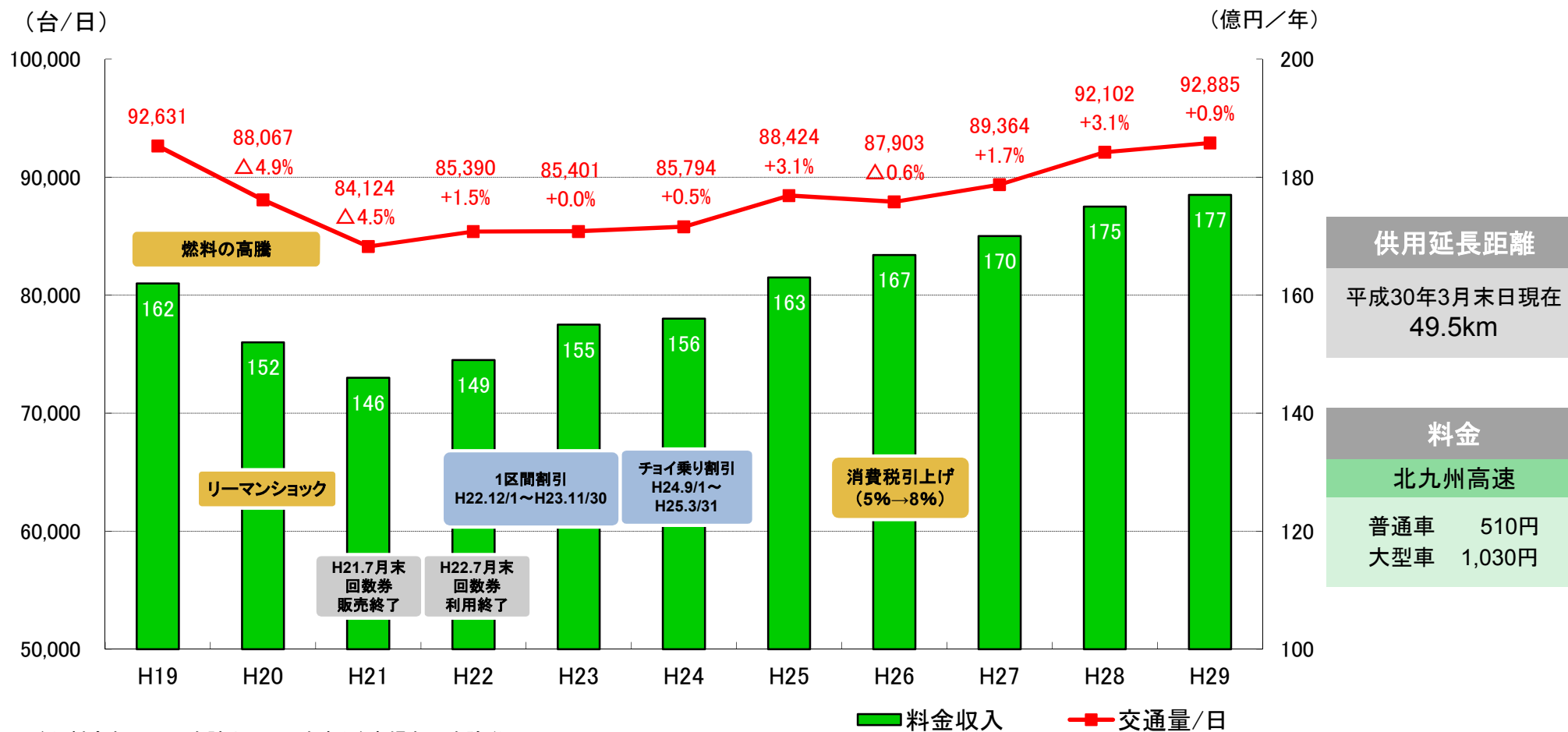


注) 料金収入のみを計上しています(駐車場収入を除く)

通行台数・料金収入の推移（北九州高速道路）

平成29年度

■ 平均通行台数：9.3万台／日 ■ 平均料金収入：0.49億円／日 ■ 料金収入：177億円／年



注) 料金収入のみを計上しています(駐車場収入を除く)

供用延長距離
平成30年3月末日現在
49.5km

料金
北九州高速
普通車 510円
大型車 1,030円

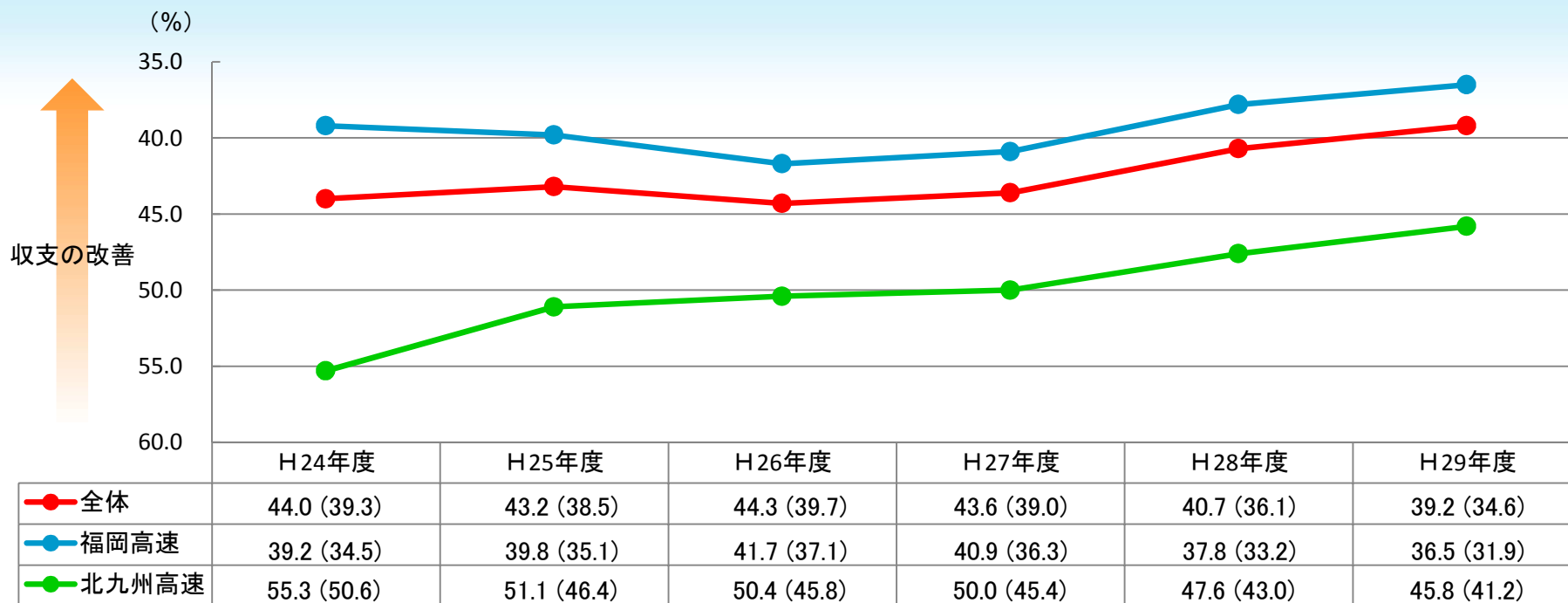
収支状況の推移(平成24~29年度)

- 経年的にも、毎年度、**確実に収支差益を確保**

収支率とは、収益に対する費用(管理費+金利等)の割合

$$\text{収支率} = \frac{\text{管理費} + \text{金利} + \text{損補}}{\text{収益(料金収入等)}} \times 100$$

収支率の推移(平成24~29年度)



注1) 割合は百万円単位で計算しています

注2) ()内の数値は損失補てん引当金を考慮しない場合の収支率です

キャッシュ・フロー計算書

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、年間300億円超となっており安定的に推移しています。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、福岡高速6号線の建設開始(平成28年度)により減少しています。

(単位:億円)

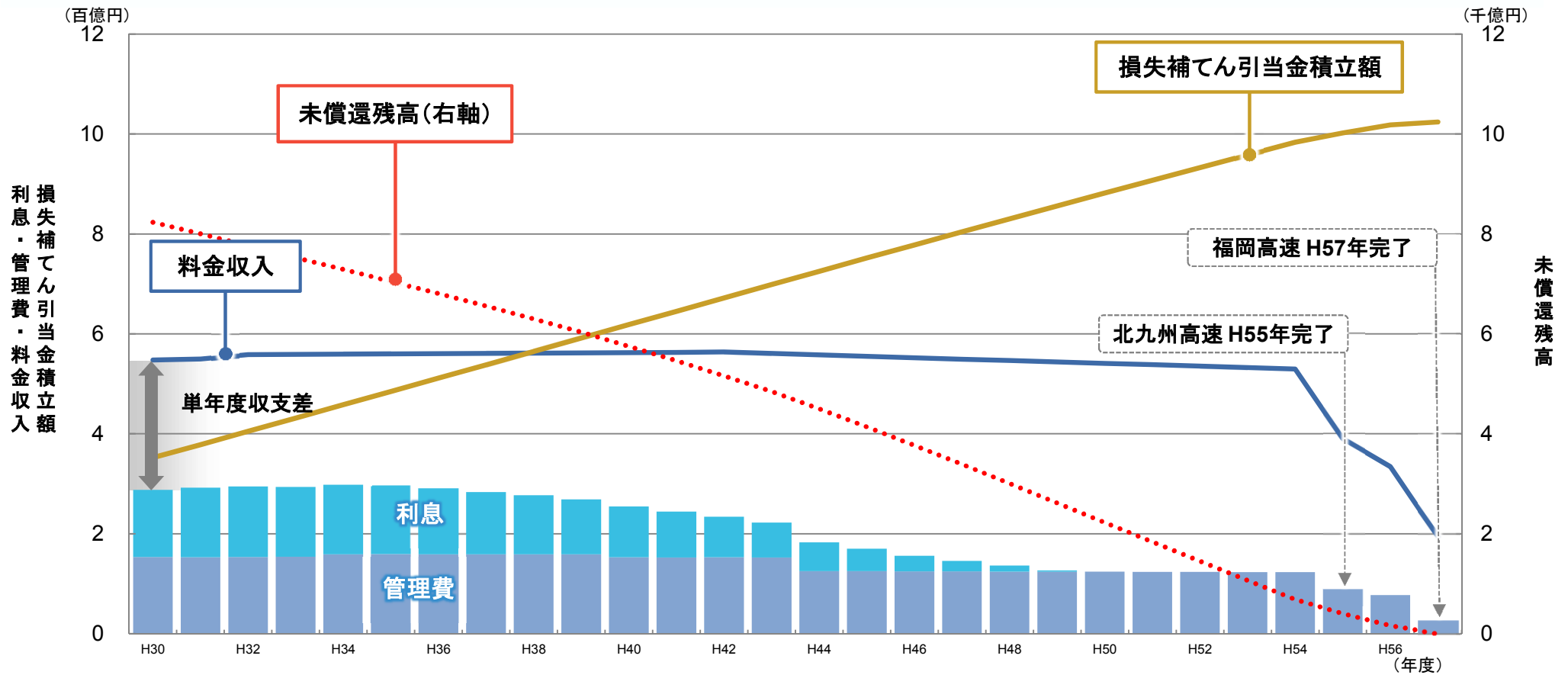
	H29年度(A)	H28年度(B)	増減額(A-B)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
当期償還準備金繰入	368.3	354.2	14.1
退職給与引当金等の増減額	△0.1	△ 0.6	0.5
損失補てん引当金の増減額	27.9	27.5	0.4
債券・長期借入金利息等	55.3	65.3	△ 10.0
債券・長期借入金利息等の支払額	△ 56.4	△ 66.4	10.0
その他	9.0	2.7	6.3
営業活動によるキャッシュ・フロー	403.9	382.7	21.2
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
事業資産の取得による支出	△ 4.4	△ 5.2	0.8
建設仮勘定の取得による支出	△ 51.4	△ 23.5	△ 27.9
固定資産の取得による支出	△ 1.0	△ 1.8	0.8
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 56.8	△ 30.5	△ 26.3
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入による収入	0	0	0
短期借入金の返済による支出	0	△ 30.0	30.0
債券・長期借入金による収入	351.9	526.9	△ 175.0
債券・長期借入金の返済による支出	△ 687.8	△ 855.3	167.5
出資金の受入による収入	6.5	2.2	4.3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 329.4	△ 356.1	26.7
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	0.0	0.0	0.0
V 現金及び現金同等物の増加額	17.7	△ 4.0	21.7
VI 現金及び現金同等物期首残高	1.8	5.7	△ 4.0
VII 現金及び現金同等物期末残高	19.5	1.8	17.7

注)端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります

償還計画図

福岡・北九州高速道路の償還計画

- 供用延長: 106.3km
- 事業費: 1兆2,280億円
- 償還完了: 平成57年度
- 損失補てん引当金額: 1,024億円



- 福岡高速道路の償還は、換算起算日(全路線の平均的開通日・平成10年)から47年間
- 北九州高速道路の償還は、換算起算日(全路線の平均的開通日・平成5年)から50年間

平成30年度収入支出予算(事業別)

(単位:億円)

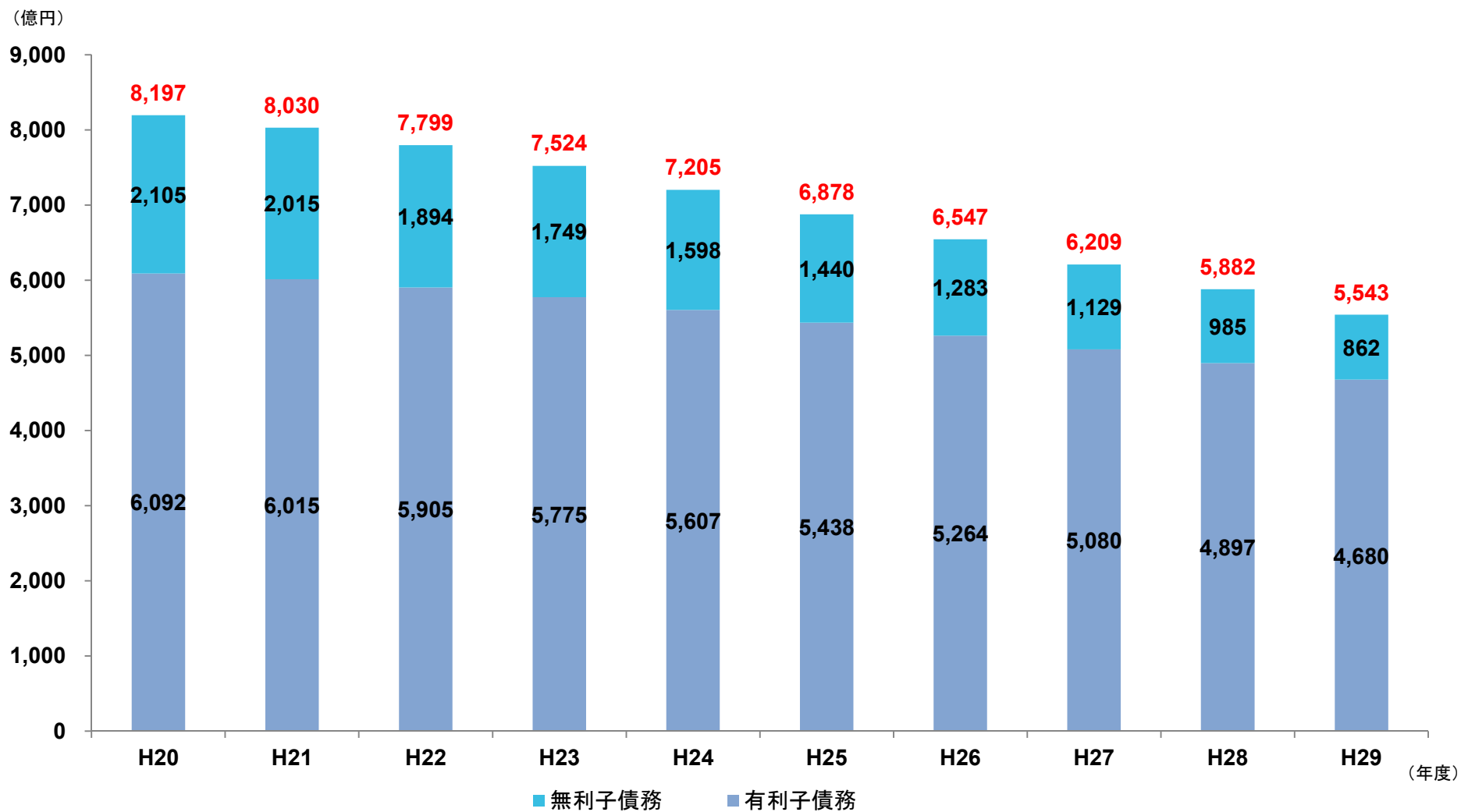
区分	収入				支出			
	科目	H30年度 予算額(A)	H29年度 予算額(B)	(A)/(B)	科目	H30年度 予算額(A)	H29年度 予算額(B)	(A)/(B)
建設事業	県・市出資金	8	6	118.5%	高速道路建設費等	47	40	119.2%
	政府無利子貸付金	13	11	118.5%	一般管理費	4	4	100.0%
	特別転貸債	18	15	118.5%	支払利息	1	0	433.3%
	民間資金(建設)	13	11	118.5%				
	合計	51	43	118.5%	合計	51	43	118.5%
管理事業(営業)	料金収入	615	597	103.0%	維持改良費	86	84	102.9%
	民間借入金(借換)	353	345	102.4%	業務管理費	88	94	93.4%
	市中銀行借入金	30	30	100.0%	一般管理費	15	16	95.7%
	原因者負担金受入	1	1	100.0%	業務外支出	810	779	104.0%
	雑収入	1	1	120.2%	元金償還金	728	688	105.8%
	(収支差)	(374)	(343)	109.2%	市中銀行借入金償還金	30	30	100.0%
					支払利息	53	61	85.5%
				原因者負担補修費等	1	1	100.0%	
	合計	1,000	974	102.7%	合計	1,000	974	102.7%
その他	受託業務収入	4	3	127.4%	受託業務費	4	3	127.4%
	合計	4	3	127.4%	合計	4	3	127.4%
	総合計	1,055	1,020	103.5%	総合計	1,055	1,020	103.5%

注1) 当初予算額を記載しています

注2) 千万単位で四捨五入しているため、5千万円未満は表記上0となっております

注3) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります

債務残高の推移



出資金

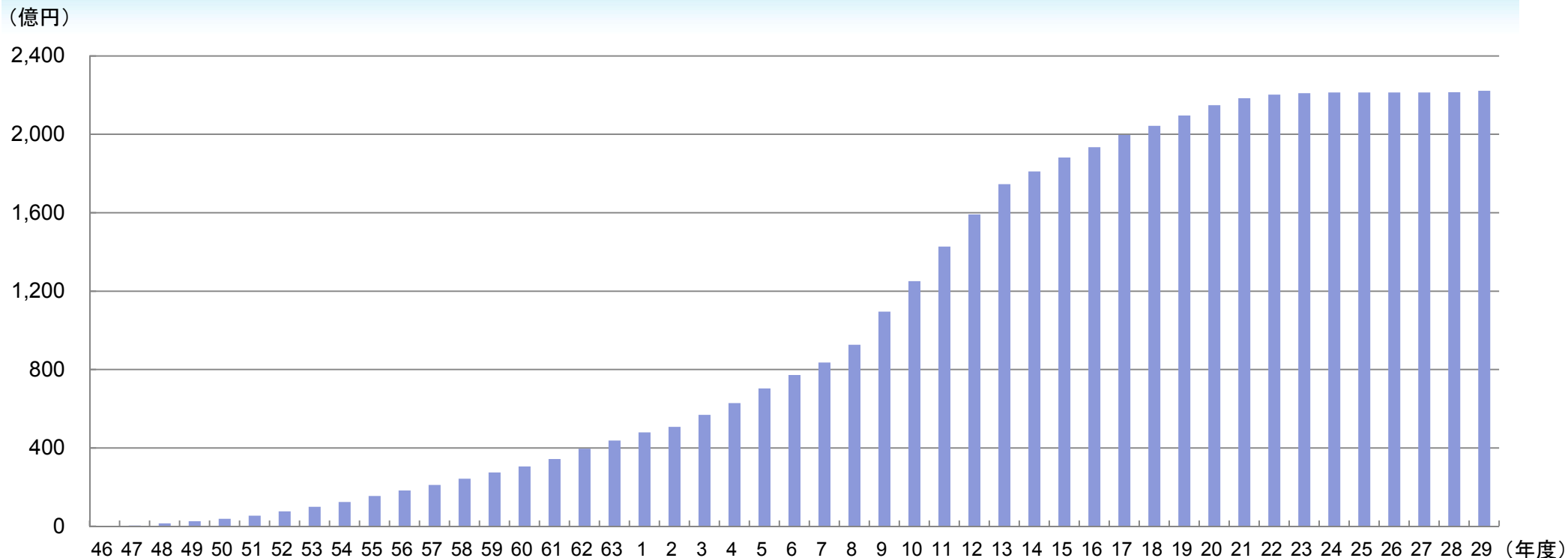
福岡北九州高速道路の整備に要する資金の一部は、計画的な事業執行や安定した償還が可能となるよう国の無利子貸付金とともに、地方公共団体(設立団体)の出資金により構成

出資団体別累計(平成30年3月末現在)

(単位:億円)

出資金	地方公共団体(設立団体)		
	福岡県	福岡市	北九州市
2,222	1,111	823	287

出資金累計(基本金)の推移



路線図



(平成30年3月末日現在)

- 本資料は、投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、債券の募集、売出し及び売買の勧誘などを目的としたものではありません。
- 本資料の中でお示した将来の見通し又は予測は、本公社として現時点で妥当と考えられる範囲内にあるものの、確実な実現を約束するものではありません。
- 債券へのご投資の判断にあたりましては、当該債券の発行などにあたり作成された最終債券内容説明書など、入手可能な直近の情報を必ずご確認いただき、皆さまのご自身の責任でご判断くださいますようお願い申し上げます。

本資料に関するお問合せ先

福岡北九州高速道路公社
総務部 財務課 資金係

TEL 092 - 631 - 3289(直通)

FAX 092 - 631 - 0128

URL <http://www.fk-tosikou.or.jp/>